

川越再開発と交通量調査

東京国際大学経済学部

本間立志

本稿は、アンケート調査と交通量調査を行い、川越再開発についての提言を試みる。アンケート調査と交通量調査から、以下のことがわかった。①調査対象学生のうち、本川越駅－川越市駅間を徒歩で利用する割合は、約 7.3%である。②交通量の調査地点としてもっとも高頻度で選ばれたのは、明光義塾である。③本川越駅 - 川越市駅間の歩行時間短縮案としてもっとも多くから選ばれたのは、往復バスである。④夕方の約 50 分間に明光義塾前を通過した高齢者は、533 人中 25 人、全体の約 4.7%だった。⑤本川越駅 - 川越市駅間の理想所要時間は、5 分とする学生（西口開設工事に賛成し、それ以上望まない）が 74%である。川越再開発に関する提言の概要は、次の通りである。①本川越駅西口開設工事により本川越駅 - 川越市駅間の所要時間が短縮されると、利用者に占める高齢者の比率が現在よりも増えると予想される。新経路周辺で高齢者関連サービスを提供する。②三駅一体化など、将来追加工事を行うべきとする回答が約 2 割存在する。将来の追加工事を考慮に入れた形で、現在の工事をする。③将来追加工事を行う場合、工事費が高額になる。大規模プロジェクト他が併せて行われるように働きかける。④西口開設による新経路の端から川越市駅までは、徒歩区間が残る。民間部門の自発的な創意工夫に任せる、各種研究を踏まえて追加工事をする、などいろいろな可能性が残されている。回遊性の向上（川越市と埼玉県の税収増）の観点から検討する。